

ASEAN グローバルプログラム に参加して

長岡 優希
Yuki NAGAOKA
物質化学科 2年

1. はじめに

2018年8月28日から9月6日にかけて、ベトナムとシンガポールにおいて、企業訪問、大学見学、講演会などを含む ASEAN グローバルプログラムに参加した。今回のプログラムの具体的な研修内容を表に示す。

表1 プログラムの日程

8月28日(火)	入国 ベトナム, オリエンテーション
8月29日(水)	企業見学
8月30日(木)	PBL
8月31日(金)	PBL
9月1日(土)	観光
9月2日(日)	ハノイ発, シンガポール着, 講演会
9月3日(月)	南洋工科大学見学
9月4日(火)	講演会
9月5日(水)	自由行動, シンガポール発
9月6日(木)	帰国

2. 志望動機

私は海外に行ったことがなく、2年生の間に行きたいと考えていた。その時、タイミングよくこのプログラムの募集を行っていたのが一番の動機であるが、観光ではいけないような海外の大学や企業の見学、海外で働いている日本人ビジネスマンの話を聞くことが出来るという内容は、グローバルなセンスが身につけられると思い、飛びついた。これに加え、海外に行くことで新たな文化や価値観に触れることも出来るので、自分の視野を広げて日本での学校生活を大きく変えることが出来ると考え、参加を希望した。

3. 研修内容

プログラムの中で最も印象に残っている、シンガポールでの2つの企業への訪問と講演について以下に詳しく報告する。

3.1 WASABI CREATION 社の講演会

WASABI CREATION 社の CEO である Tang 氏はとても気さくで話しやすい雰囲気の方であった。Tang 氏によるシンガポールの紹介からは、シンガポールは昔の反省を生かして成長していることがよくわかった。例えば、汚れていた町を法律で整備してきれいな町並みにする、複数の民族がシンガポール国民という自覚を持つために共同住宅に混在して住むことが義務付けられている、毎朝国旗掲揚と国歌斉唱を行うことで国の理念を忘れないようにさせている、などの反発も多そうだがシンプルで効果的と思える様々な政策を行っていると感じた。



写真1 WASABI CREATION 社での記念写真
(中腰の列中央やや左のメガネをかけた方が Tang 氏)

これらの政策が、他人を理解する力やグローバルな人材の育成に大きく役立っていると感じた。人員育成や観光のためのここまで大胆な政策を聞いたことがなかったので、とても行動力のある国だと理解した。

3.2 Google 社の講演会

私はまず、Google 社が「10億人がインストールするような製品（アプリ等）の開発」を目標にしているという話を聞いて、スケールの大きさに圧倒された。10億人というと全人類の約7分の1という

多大な数である。その10億人のユーザーの利益を第1とするサービスやアプリ、コンテンツを考えなければならないということにも関係しているのかわからないが、Google シンガポール社には豪華な食事やフレッシュジュース、炒れたたてのコーヒーをいつでも食べたり飲んだりすることができる環境や、過ごしやすい空間が用意されていた。規模の大きな商品のための新しいアイデアを生み出すためには、会社としてなんでもする、という姿勢がひしひしと伝わってきた。そのような開発はとても大変だが、やりがいのある仕事だと思う。



写真2 Google 社での記念写真
(受付での巨大なスクリーンでの歓迎に圧倒)

Google シンガポール社では、営業の方が会社説明、今後の戦略を紹介してくださったが、講演を聴いていると Google 社が今のように巨大な会社になった秘訣はユーザーの事を1番に考えるという理念

を徹底して守っているということだと感じた。この理念をひたむき守ることで人々の信頼を集め、さらにユーザーが増え、そのユーザーが Google 社を信頼して他のアプリへ手を伸ばす、という良循環によって企業が大きくなっていると考えた。Google 社をみて、どんな会社、あるいは人付き合いにしても、1番大切なものは信頼であると理解した。

4. おわりに

今回の ASEAN グローバルプログラムを通して志望動機であった新たな文化や価値観に触れ視野を広げるという目標は達成できたと思う。日本は海外に比べて安全で治安が良く、歴史的な建物がたくさん残っているということなども体感して気づけ、よく理解できた。

また、これからのグローバル社会には英語が必須であるということをとっても実感した。ベトナムのハノイ工業大学の学生との PBL (表1 参照) やその中でのイオンモールでのアンケート調査の際に、英語を用いて自分の意思をもっと伝えることが出来ていたらより、楽しく充実した研修内容になっていたと思い、事前の英語学修として用意されていたオンライン英語講座や個人レッスンをもっとより多く活用しておけばよかったと反省する。

今回のような海外の企業を見学する機会があれば、また参加したい。研修前の自分では、このような考え方は絶対に出来なかったと思うので、研修に参加して多くのことを学べたし、自分の姿勢事態にも影響したプログラムであったと思う。